

International
Geography Olympiad 2017

2017 SERBIA

国際地理オリンピックに ようこそ！

第11回科学地理オリンピック日本選手権 および
第14回国際地理オリンピック日本代表選抜大会

国際地理オリンピック日本委員会公式サイト
<http://japan-igeo.com/>

主催：国際地理オリンピック日本委員会 共催：公益社団法人 日本地理学会、公益社団法人 日本地球惑星科学連合、国立研究開発法人 科学技術振興機構（JST）
後援：文部科学省、日本地理教育学会、日本地図学会、一般社団法人 人文地理学会、経済地理学会、東北地理学会、地理科学学会、地域地理科学会、
一般社団法人 地理情報システム学会、公益社団法人 東京地学協会、一般財団法人 日本地図センター
協賛：帝国書院、二宮書店、古今書院、東京カートグラフィック、東進ハイスクール、日経ナショナル ジオグラフィック社

国際地理オリンピックは 「地理力」を競う

地理オリンピックの歴史

地理オリンピックのルーツは、1965年、エストニアの大学生が企画した「環バルト海地理競技会」がルーツです。地理学を学ぶ学生が国の垣根を越えて集まり、地理教育の未来を語り合いました。

1994年に行われたIGU（国際地理学連合）の総会（プラハ：チェコ）で、オランダとポーランドの委員が「国際地理オリンピック」を提案しました。それ以降、13回の世界大会と3回の地域大会（アジア・オセアニア地域）が行われました。そして2017年には、ベオグラード（セルビア）で第14回国際地理オリンピック iGeo Beograd 2017 が行われます。

国際地理オリンピック（世界大会）

第1回大会	1996年	ハーグ：オランダ
第2回大会	1998年	リスボン：ポルトガル
第3回大会	2000年	ソウル：韓国
第4回大会	2002年	ダーバン：南アフリカ共和国
第5回大会	2004年	グディニア：ポーランド
第6回大会	2006年	ブリスベン：オーストラリア
第7回大会	2008年	カルタゴ：チュニジア
第8回大会	2010年	タイペイ：台湾
第9回大会	2012年	ケルン：ドイツ
第10回大会	2013年	京都：日本
第11回大会	2014年	クラクフ：ポーランド
第12回大会	2015年	トヴェリ：ロシア
第13回大会	2016年	北京：中国

地域地理オリンピック（地域大会）

第1回大会	2007年	シンチュー：台湾
第2回大会	2009年	つくば：日本
第3回大会	2011年	メリダ：メキシコ

国際地理オリンピックは 3つの種目で競います。

◆記述式テスト（WRT）

さまざまな地理的な現象や地域の課題についての問いに、地図や写真、統計などの資料を手掛かりに答えます。答えを導き出す過程も採点の対象になります。

◆マルチメディアテスト（MMQ）

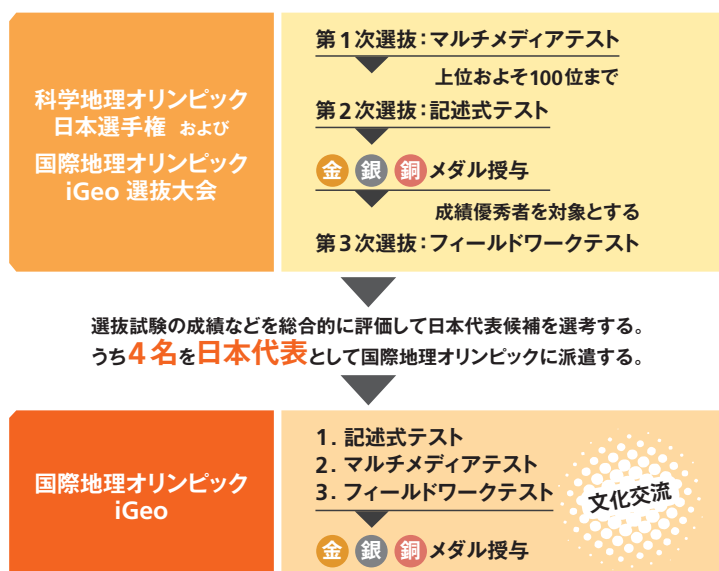
地図、写真、グラフなどを使って、そこで表されている地理的な現象や課題を読み取るテストで、解答は4つの選択肢から選ぶ客観式テストです。

◆フィールドワークテスト（FWT）

指定された地域のコースを歩きながら観察します。いくつかのチェックポイントをまわり、そこで説明を受けます。競技者は、観察した地理的な現象や地域の様子、観察できる景観についてメモを取りながら歩きます。そして、課題が出されて作業を行います。野外での観察と作業のあと、それらをもとにした問題に答えます。問いかけが求めていることを的確に表すことが求められます。

「地理オリンピック」の共通言語は英語です。国際地理オリンピック（世界大会）ではすべて英語での出題と解答が求められます（辞書の持ち込みは可）。そのため、科学地理オリンピック日本選手権でも全体の2割の問題は英語による出題・解答です。英語による解答は、上手な文章でなくても、論理的に正しく的確に表現することが大切です。非英語圏の国々からも、多くのメダル受賞者が出ています。

「地理オリンピック」の世界大会や地域大会では、さまざまな国の学生や先生と交流することも目的とするところですが、世界には、「地理」を理科の科目のひとつとして学んでいる国もあれば、地理と歴史が補完的な関係を持ち同じ先生が地理と歴史を教える国もあります。さまざまな国・地域から集う学生や先生と交流し、お互いの国の文化、教育などについてさまざまな相違点を共有し合うことは地理オリンピックの大切な役割です。



◆ 募集要項

参加資格

2016年4月以降、大学およびそれに相当する教育機関で教育を受けていない19歳未満の者。ただし、世界大会の出場選手（4名）は、2017年6月末の時点で16歳～19歳の者から選出されます。

選抜について

■第1次選抜 2017年1月7日(土)

会場：札幌、函館、秋田、山形、一関、仙台、水戸、前橋、東京、新潟、上越、高岡、福井、静岡、豊橋、名古屋、京都、福知山、大阪、加古川、浜田、岡山、広島、福岡、長崎、竹田（大分）、鹿児島、那覇の28会場を予定。

なお、応募状況などにより、会場を変更することがあります。最新の情報を、国際地理オリンピック日本委員会のホームページ（<http://japan-igeo.com/>）で確認してください。また、担当の先生が責任を持って試験会場を提供し、試験を実施していただける場合は、特例的に試験会場を設置することができます。ご希望がある場合には、科学オリンピック共通事務局（TEL: 042-646-6220、E-mail: info@contest-kyotsu.com）にご連絡ください。検討の上、主催者が決定します。

内容：マルチメディアテスト

〈スライドで提示する地図・図表・写真などをつかった問題に答える客観式テスト〉問題の約2割は英語による出題で辞書の持ち込みは紙媒体のみ可能。解答時間は60分。

選考：テストの成績上位約100名が第2次選抜に進むことができます。

テストの結果は、後日、個人宛てに郵送します。

■第2次選抜 2017年2月19日(日)

会場：東京、大阪などを予定。※前回大会では全国12カ所で実施。

第2次選抜受験者の居住地を考慮して会場を指定します。

内容：記述式テスト

〈地図・資料などの読解を中心にした記述式テスト〉問題の約2割は英語による出題で辞書の持ち込みは紙媒体のみ可能。解答時間は120分。

選考：成績優秀者を表彰し、金、銀、銅メダルを授与します。

成績優秀者の上位から選抜された者が第3次選抜試験に進むことができます。

テストの結果は、後日、個人宛てに郵送します。

■第3次選抜 2017年3月11日(土)・12日(日)

会場：関東地方で実施予定。

内容：フィールドワークテスト

〈フィールドワークをもとにした筆記・作図などの試験〉問題の約2割は英語による出題で辞書の持ち込みは紙媒体のみ可能。当該の受験生には直接通知します。

選考：選抜試験の成績などを総合的に判断し4名を日本代表として、2017年8月2日～8日にベオグラード（セルビア）で開催予定の第14回国際地理オリンピックに派遣します。

問題について

過去の問題は、国際地理オリンピック日本委員会のホームページ（<http://japan-igeo.com/>）で閲覧することができます。

なお、2010年までは、第1次、第2次選抜の区別はなく、マルチメディアテストと記述式テストを同日に行っていました。

参加申込みについて

申込期間：2016年10月1日(土)～11月30日(水)

郵送は11月30日(水)必着、WEBエントリーは12月5日(月)23:59まで。

申込み方法：郵送またはWEBエントリー

参加申込書を郵送する方法と、申込み専用ページからWEBエントリーする方法があります。どちらの申込み方法でも、個人で申し込む「個人申込み」と学校ごとに団体で申し込む「学校申込み」が選べます。なお、応募にあたっては保護者の同意が必要です。WEBエントリーでは保護者同意欄にチェックを、郵送の場合は保護者の署名・捺印を、それぞれ忘れずにお願いします。

「個人申込み」 申込み専用ページからWEBエントリーするか、本募集要項に添付された参加申込書に必要事項を記入して下記の郵送申込書送付先に郵送してください。

「学校申込み」 学校申込みには①学校で一括して申込み一般会場で受験する方法と、②自校で在校生徒だけで受験する方法があります。在籍する学校の担当の先生に相談してください。

〈担当する先生へのお願い〉

①の場合には、応募する生徒全員に本募集要項に同封された「申込書」の①個人（生徒）申込み欄に記入させ、担当する先生が「申込書」の②学校申込み（一般会場）欄に記入してください。応募する生徒の人数分の参加申込書と、先生が②に記入した参加申込書をまとめて、郵送申し込み送付先にお送りください。

②の場合には、担当する先生がWEB申込専用ホームページ（下記アドレス）にアクセスし、特例会場の設置条件を読み同意されたうえで、申請書をダウンロードして必要な項目に記入の上申請をしてください。実行委員会が協議して申請の可否を検討します。特例会場として認められた場合、①と同様に、応募する生徒全員に本募集要項に同封された「申込書」の①個人（生徒）申込み欄に記入させ、担当する先生が「申込書」の③学校申込み（特例会場）欄に記入してください。応募する生徒の人数分の参加申込書と先生が③に記入した参加申込書をまとめて、郵送申し込み送付先にお送りください。

大会参加費等について

大会参加費は無料です。

ただし、会場までの交通費等は参加者の負担となります。

国際地理オリンピックは大学のAO入試・推薦入試等の特別入試の対象です。

科学地理オリンピックで日本代表として選抜された者あるいは日本国内で行われる代表者選考等で一定の成績を収めた者を対象として、筑波大学・東北大学・駒澤大学では、特別入試の対象となっています。

WEB申込み専用ホームページ

<https://contest-kyotsu.com>

参加申込みに関するお問い合わせは

☎ 科学オリンピック共通事務局へ！

・TEL 042-646-6220
（平日12:00～13:00／17:00～19:00）
・E-mail info@contest-kyotsu.com

郵送申込書送付先

〒192-0081 東京都八王子市横山町10-2
八王子SIAビル1F
（株）教育ソフトウェア内
科学オリンピック共通事務局 宛て

個人情報の取り扱いについて

「科学地理オリンピック日本選手権兼国際地理オリンピック選抜大会」は、国際地理オリンピック日本委員会（以下、「主催者」という）が主催しています。ご提供いただく個人情報は、次のように取り扱います。参加申込みされる方およびその保護者は、以下の内容について同意した上で申し込んでください。

1. 個人情報の収集目的について

・「科学地理オリンピック日本選手権兼国際地理オリンピック選抜大会」においては、参加申込みに際して提供された参加申込者本人およびその保護者に関する個人情報ならびに「科学地理オリンピック日本選手権兼国際地理オリンピック選抜大会」の各段階において記録・撮影される写真等は主催者に登録され、主催者が本事業の円滑な運営を遂行するために使用するとともに、本事業に関連する各種広報のために利用させていただきます。

2. 個人情報の第三者への提供・預託について

・ご提供いただいた個人情報は、「科学地理オリンピック日本選手権兼国

際地理オリンピック選抜大会」の実施運営のため、管理されます。提供するにあたっては、主催者は個人情報の適切な管理を実施いたします。
・ご提供いただいた個人情報の一部を、参加申込者の受験される第1次選抜の会場に対して、第1次選抜当日の出欠確認のために必要な範囲内で一時的に提供し、使用後返却回収します。

3. 個人情報の業務委託について

・主催者は「科学地理オリンピック日本選手権兼国際地理オリンピック選抜大会」の申込受付業務および受験業務の一部を株式会社教育ソフトウェアに業務委託しております。

4. 個人情報のご提供の任意性について

個人情報の提供は任意ではありますが、必要な情報がご提供いただけない場合は、上記利用目的の遂行に支障が生じる可能性がありますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

5. 個人情報の管理者について

ご提供いただいた個人情報は以下の者が適正に管理いたします。

国際地理オリンピック日本委員会実行委員会
実行委員長 井田 仁康
国際地理オリンピック日本委員会実行委員会
事務局長 生田 清人

6. 個人情報に関するお問い合わせについて

ご提供いただいた個人情報に関して、開示、および開示の結果、当該情報が誤っている場合に訂正または削除のお申し出をいただいた場合には、速やかに対応させていただきますので、下記までご連絡ください。

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16
学会センタービル
公益社団法人 日本地理学会 事務局 気付
国際地理オリンピック日本委員会実行委員会 事務局
E-mail: geolympiad@ajg.or.jp



第14回 国際地理オリンピック iGeo Beograd 2017

会期 2017年8月2日(水)～8月8日(火)

会場 ベオグラード(セルビア)およびその周辺



iGeo Beograd 2017を目指す方へのOB・OGからのアドバイス

つじありつね
辻有恒さん

私立灘高等学校卒業

東京大学 理科三類 在学中

iGeo Tver 2015

日本代表チーム・選手

2015年にロシアのトヴェリで行われた
世界大会に派遣されました

私が地理オリンピックに出場して得られた経験の中で、最も印象に残っているのは問題の面白さです。地理オリンピックの試験では、もちろん地理の知識を持っていることもある程度必要ですが、それだけではありません。単に暗記能力が問われるのではなく、知識を応用して地域の問題解決を行うことが要求されます。特にフィールドワークテストはその真骨頂と言えるでしょう。そこで求められるのは、豊かな発想力です。

地理オリンピックのもう一つの魅力は、国際大会の場で地理好きの世界中の高校生と交流できることです。彼らと互いに意見や情報を交換することで異文化を知り、新しいことに気づくこともできるでしょう。また地理の面でも、彼らの発想力に大いに刺激を受けるはずです。

地理オリンピックの場で地域を地理の目で捉える経験をすることで、普段何気なく通り過ぎていたような土地でも、一味違った視点を持って見直すことができるようになり、自分の視野を広げることができると思います。地理オリンピックに参加して、自分の世界を広げていってください。

きくち ゆうた
菊池裕太さん

筑波大学附属駒場高等学校卒業

京都大学 法学部 在学中

iGeo Tver 2015

日本代表チーム・選手

2015年にロシアのトヴェリで行われた
世界大会に派遣されました

国際地理オリンピックは、テストだけではない。遠足もあれば外国の選手との国際交流もあって、そこで9日間は本当に印象的だった。しかし、地理オリンピックを経験する中で最も思い出深いのは、世界大会本番よりも、地理オリンピックに出るために本を読んで調べ物をしたり、家の周りを歩き回ってフィールドワークの練習をしたりした「準備期間」だった。

「せっかくの機会だし、もしかしたら何かの間違いでメダルがもらえるかもしれない。あと本気出さないで落とされるのは悔しい。」そんな負けず嫌いな気持ちもあって、国内選抜を重ねるにつれて本気になった。運良く国際大会への出場が決まってからは、さらに大変だった。世界大会はすべて英語だから、英語を叩き直さないとイケなかった。英語で書かれた地理の教科書を読み漁った。でも「本気」になって一つの学問分野をとことん学ぶことは、何にも代え難い経験で、価値があると思えるもので、何よりめちゃくちゃ楽しかった。

本気になって当時身につけた地理的感覚は、今でも役立っている。それは、地理が日常生活に密着している学問だからだと思う。受験勉強での地理は座学中心だから、例えば世界中の大地形について頭の中でイメージするしかなくて、それに飽きてしまった人もいるのかもしれないけど、地理オリンピックは、椅子に留まらないで、街に出てフィールドワークの楽しさをどこまでも味わえる。旅行が好きな人、世界に興味がある人、住んでいる街に興味がある人、“地理”の世界で金メダルを取ってやる!という意識が高くてカッコいい戦士が集まることを願っている。

テストの様子 (ケルン大会より)



記述式テスト



記述式テストの問題配布



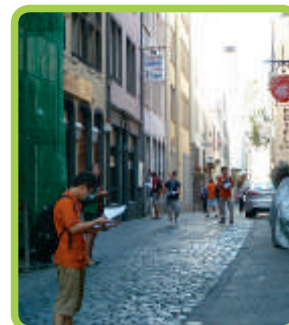
フィールドワークテスト



フィールドワーク直前の説明



フィールドワークの様子



フィールドワークの様子

ここでは科学地理オリンピックの国内選抜試験で出題された問題をご紹介します

マルチメディアテスト (MMQ)

第1次選抜試験 問題例

次の写真は京都市内で撮影された通常の河川改修工事の様子である。撮影された時期は？

- ① 2月 ② 4月 ③ 6月 ④ 9月

解答のポイント

河川改修工事は水需要が少なく、河川水量が少ない時期に行うことが効率的である。京都市内とあることから、太平洋側の気候区に属していると判断する。太平洋側の気候区では冬に降水量が少ないということから2月が正解となる。背景にある河畔の木が落葉していることもヒントになる。単に自然現象のみでなく人間の営みも併せて考察するのが地理の特徴である。



記述式テスト (WRT)

第2次選抜試験 問題例

図の **A** **B** は1990年と2010年のブラジルにおける州ごとの大豆生産量、**C** はマットグロッソ州産大豆の輸出港の位置を示している。

次の①②の各問いに答えなさい。

- ① ブラジルにおける大豆生産地域がどのように変化したかを気候に着目して述べなさい。
② マットグロッソ州における大豆生産が、周辺地域にどのような問題をもたらしているか、図 **C** から分かることを説明しなさい。

A 1990年の大豆生産



B 2010年の大豆生産



C マットグロッソ州産大豆の輸出港



A **B**: Produção Agrícola Municipal より作成 **C**: 本郷豊・細野昭雄 (2012)『ブラジルの不毛の大地「セラード」開発の奇跡』ダイヤモンド社より作成

解答例

- ① 温帯地域からサバナ地域へ
② アマゾン川流域にある港への道路を建設するために多くの熱帯雨林が伐採されている

Point

- ① ブラジルの緯度の広がりを考えて、それぞれの生産量が多い地域の気候を考えましょう。
② 内陸部から輸出港への輸送のために必要になったことを考えましょう。



2016年8月に中国で行われました /

第13回

国際地理オリンピック iGeo Beijing 2016



エキスカージョンで訪れた万里の長城

北京大会の日本代表生徒と引率教員のレポート

地理オリンピックの問題は、景観観察や地図作業、資料分析等を通じた思考力・判断力・表現力の探究プロセスを重視している点にその特徴があります。また、対象地域の特性を十分理解した上での「持続可能性」や「生活の質」の追求を通じた社会形成能力を重視している点も特徴として挙げることができます。これらの力は「市民力」といえるもので、私たちが日常生活を営むにあたって必要不可欠な能力といえます。北京大会への参加を通じて、世界の求める地理の学力とは何かを、そして地理の果たすべき社会貢献とは何かを改めて実感しました。

日本代表引率教員 泉貴久



故宮と日本代表選手



フィールドワークテスト前夜のミーティング

地理オリンピックにおいて最も重要なのはメダルを競う3種のテストです。しかし、地理オリンピックにおいては、日本はもちろん、世界中から集まった一流の選手や先生方との交流も非常に重要な要素です。

今回の大会で、日本選手団は、メダル獲得はもちろん、文化交流面でも大成功を収めました。文化発表の演劇では各国の注目を集め、ポスターでは1~4位に与えられる優秀賞をいただきました。賞を頂いた時の喜びは忘れられません。各国選手と交わした会話も素晴らしい思い出です。北京大会は、自分にとって最高の大会でした。

日本代表生徒 佐藤剛 筑波大学附属高等学校3年

地理オリのテストはすごく面白い!2016年大会では、北京市内の交差点に立ち、バスや自転車の通過台数を測定しました。紙の上にとどまらず、街に出て行って自ら情報を探す。それが他の科学五輪にはない、地理オリの醍醐味です。

テストだけじゃない。Cultural Session(文化交流)では各国の伝統文化を「五感で」体験できます。Excursion(巡検)では故宮や万里の長城を訪れ、海外選手と交流を深めました。皆で宿舎のロビーに集まり、将来の夢を語り合った夜も忘れられません。地理オリへの参加はまさに、あなたの世界観を拓ける第一歩です。

日本代表生徒 松藤圭亮 福岡県立修猷館高等学校3年

国際地理オリンピックは、地理的技能や応用力を競い合うことが最大の目的ですが、大会では国際親善の役割と研究発表もあります。エキスカージョン(巡検)、食事、移動の車内、文化交流会など他国の選手と交流する機会がたくさん用意されているのも特徴です。互いの生活文化やこれからの進路について話している姿を何度も見ました。もう一つは、与えられたテーマを4名の代表選手で事前に調べ、英語によるポスターセッション形式の発表と質疑応答を行います。優秀な発表には賞が贈られ、北京大会の日本チームは選ばれました。地理を通して科学的な地域を見る目と国際社会に貢献する力が身につくことを実感しました。

日本代表引率教員 中村洋介

地理オリンピックの楽しさは、テストやイベントにとどまりません。例えば、事前学習に使ったイギリスの教科書は物事の二面性を重視していて、日本での授業とは違う視点で学ぶことができました。大会でも、他国の選手と話中で、地理に関する見方や教育制度、歴史や文化などの違いを知ることができました。ただの観光でなく「地理」だからその視点で開催都市を歩くこともできます。このように、多様な価値観に出会い、様々な面からこの世界について考え話し合える、大変面白い旅です。皆さんもぜひ、世界大会目指して頑張ってください。

日本代表生徒 大鶴啓介 渋谷教育学園幕張高等学校3年

第13回国際地理オリンピックに参加し、多くの貴重な体験ができました。地理オリンピックのような国際大会に参加することの大きな意義として、異文化交流があると思います。大会期間中、参加各国の文化はもちろん、世界における日本のイメージについても知ることができました。特に、三種類の文字を使い分ける日本語の表記法や、世界有数の混雑度を誇る(誇るべきではありませんが)通勤ラッシュについて聞いてくる人が多く、自分の中の「海外での日本像」像が大きく揺らぎました。北京における一週間は、僕の人生にとって重要なものになったと思います。

日本代表生徒 青木慧 筑波大学附属駒場高等学校3年



ポスターセッションで説明する代表選手



北京大会に参加した日本代表選手